

対象	小学校高学年以上
教科	社会科・総合学習・等
該当 単元	小学6年 「震災復興の願いを 実現する政治」 ・さまざまな支援と 絆
教科書	東京書籍等
掲載日	2018.1.8.朝刊12版12面市民南版

問1：この記事に「災害のときトイレどうする？」とあります。あなたは、その問いに何と答えますか。記事の内容とは別に、自分なりに考えてみてください。

港区 体験イベント「親子ら学ぶ
体験イベント「災害のときトイレどうする？」が七日、港区の市港防災センターで開かれた。親子連れ約十人が参加し、応急トイレの使い方を学んだ。同センターが主催するパネル展「トイレとぼうさい展」(二月二十五日まで)の一環として開かれた。碧南市のボランティア団体「減災チーム・トイレの備え」代表の長谷川高士さんが講師を務めた。

災害時トイレの備えは



洋式トイレにビニール袋をかぶせる参加者たち＝港区の市港防災センターで

体験会では、洋式トイレにポリ袋をかぶせ、断水した状態でも用を足せる方法を紹介。コップの水に凝固剤を入れ、簡易トイレで排せつ物を固める仕組みの説明もした。

(小沢慧一)

「簡易トイレは備蓄しているが、もったいなくて使っていない。キャンプなどで試してみたい」と感想を述べた。

長谷川さんは「災害時はストレスでトイレに行けず、体調を崩しがち。ストレス軽減のためにも簡易トイレを使う練習をした方がいい」と話した。参加した中区の主婦(四〇)は

問2：体験会ではどんな簡易トイレを紹介したのでしょうか。

()に()をかぶせ、()した状態でも用を足せる方法。

問3：断水した状態でも用を足せる方法として、どんな説明をしたのでしょうか。

コップの()を排せつ物に見立てて、()を入れ、()仕組みを説明した。

発展：トイレの他に、避難生活中に予想される問題について話し合みましょう。

自分の意見

仲間の意見

【活用にあたって】

この単元は「復興に向けたさまざまな取り組みの中で多くの支援があったことを理解する」ことがねらいです。そのことについて資料で調べて終わるのではなく、その支援や絆を教訓に、災害は今後も起きると想定してさまざまな備えをしようとしていることまで学べるとよいと思います。

災害時に必要になるものとして「衣・食・住」はすぐに思い浮かぶでしょうが、人間の生理現象(赤ちゃんから老人まで)に関わることや、治療中の人々のことなど、対策を練っておかねばならないことは多くあります。そうした危機管理意識も喚起できるとよいと思います。

解答例

問1：和式ではできない、学校では大きい方はしないといった声も聞かれる昨今。答えよりも自分はどうかと考えることから関心をもてると思います。

問2： 様式トイレ ・ ポリ袋 ・ 断水

問3： 水 ・ 凝固剤 ・ 固める

発展：解説にも書いた治療中の人々のことや、乳幼児のことなど、いろいろな状況にある人々のことを考えて話し合えるとよいと思います。